

受診率向上に向けて各市町村で独自の取り組み

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会循環器疾患等部会

鳥取県健康対策協議会生活習慣病対策専門委員会

- 日 時 平成22年9月4日（土） 午後2時30分～午後3時50分
- 場 所 鳥取県立倉吉未来中心 倉吉市駄経寺町
- 出席者 23人
岡本健対協会長、重政部会長、富長委員長
生田・大口・岡田・越智・竹田・谷口晋・谷口玲・中村・中安・宗村・
吉田眞・吉田泰・吉中各委員
県健康政策課：下田副主幹、朝倉副主幹
オブザーバー：松本岩美町健康対策課保健師、藤原智頭町福祉課保健師
岡田日南町福祉保健課保健師
健対協事務局：岩垣係長、田中主任

【概要】

- ・平成20年度の特定健診の結果が公表され、全国は対象者数約5,190万人、受診者数は約1,990万人、受診率は38.3%に対し、本県の対象者数は198,051人、受診者数は49,021人で、受診率は24.8%であった。全国より13.5%低い結果となった。
- ・特定健診の市町村国保の取り組みなどを参考に、鳥取県保険者協議会等において引き続き受診勧奨を含めた啓発をお願いしていくこととした。
- ・慢性腎臓病特別対策事業について、クレアチニン検査を健診項目に追加することについて要望があったほか、かかりつけ医と専門医との連携について引き続き周知が必要との意見があった。

挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

本日は新しい委員の先生方、また市町村からも多くの保健師さんにご出席を頂き、非常に熱心に取り組んで頂いているところであるが、資料によると、本県の平成20年度の特定健診の受診率は全国平均より低く、その中でも我々医師が加入する医師国保の受診率が非常に低い。来年から受診率向上に向けて取り組んでいきたいと考えているので、よろしくお願いします。

〈重政部会長〉

新健診制度も3年目になったところである。大学では江府町に介入し調査を進めてきたところ、本県のメタボリックシンドロームは、市部と郡部では大きく様子が異なり、保健指導も含めて特徴のあるやり方があると感じてきた。そのあたりについて、委員の先生よりご指導を賜りたい。また、CKDの対策へ向けて宗村委員に新たに就任

していただき、この後、講演をして頂くことになっている。本日はよろしく申し上げます。

〈富長委員長〉

平成20年度の特特定健診の受診率が先日公表され、本県の受診率は全国平均より低いことが明らかとなったが、保健指導の実施率も低く、今後の課題と考えている。保健指導をした場合、その効果をどう検証していくかが重要となってくる。厚労省において、治療中の者の保健指導をした場合の効果を検証するワーキンググループがあるようだが、症例もまだ少なく、個人的には検証結果の信憑性については、まだ疑問があるように思われる。

また、日本動脈硬化学会において、特定健診の項目に総コレステロールを加えるべきだと報告されている。現在はLDLコレステロールを直接測っているが、標準化されていないためにばらつきが大きく、計算により求める方が良いと言われている。今後、腹囲の問題と合わせて国において検討されることを期待したい。

本日は、協議事項でCKD特別対策事業について検討することとなるので、よろしく申し上げます。

報告事項

1. 平成20年度特定健康診査・特定保健指導の実施状況（全国との比較）：

下田健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹
平成20年度の全国の実施状況が、平成22年8月25日付で厚労省から公表された。

本県の特定健康診査の対象者数は198,051人、受診者数は49,021人で、受診率は24.8%であった。全国では対象者数約5,190万人、受診者数は約1,990万人で、受診率は38.3%であり、13.5%低い結果となった。年齢構成別受診率では、全国と比較し特に若い年齢層（40-59歳）で大きな開きが見られ、保険者別では市町村国保、国保組合、健保協会の受診率が低かった。組合健保、共済組合

では全国平均を上回った。

平成20年度は初年度ということもあり、受診率が伸び悩んだ保険者もあるようだが、21年度は上昇してくるだろうとの意見があった。

特定保健指導の対象者となった者の割合は、全国19.8%に対し、本県は11.5%と8.3%低い結果となった。実施率は11.2%であり、全国より3.4%高かった。保険者別では健保組合の実施率が37.0%とずば抜けて高く、その他の保険者はほぼ全国並みであった。

なお、平成21年度の県内市町村別結果及び保険者別の結果については、冬部会において報告される予定である。

2. 平成22年度市町村国保における特定健診の取り組みについて：

下田健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹
健診の受けやすい体制整備を検討するため、各市町村の自己負担金について調査を行った。岩美町、八頭町、若桜町、智頭町、日南町、江府町は無料、その他の市町村では概ね500円～1,000円であった。

また、受診率向上を目指した取り組みについて調査したところ、各市町村とも広報誌、ホームページ、個人への通知などで周知を行っているが、中にはがん検診とのセットで実施している、集団健診で休日の回数を増やした、テレビCMを作成し町内のケーブルテレビで放映した、など独自の取り組みをされている町もあった。各市町村の健康推進員の協力のもと、受診券を直接手渡ししている市町村もあった。

委員より、市町村国保について、自己負担が無料の市町村の受診率が必ずしも高いとは言えないが、受診率向上のきっかけになっていること、鳥取県保険者協議会等において引き続き受診勧奨を含めた啓発をお願いしたいとの意見があった。また、医療機関に通院中の者の中に特定健診未受診者が多いような印象があり、どのように住民に周知したらよいか課題である、などの声もあった。

また、委員より、各保険者への共通の要望として、クレアチニン、貧血検査、心電図検査、尿酸などの検査項目を追加するよう意見があり、どういう根拠で、どういう対象者に対し検査が必要なのか、本会で整理の上、鳥取県保険者協議会の会議等の機会を通じ、各保険者へ伝達することとなった。

協議事項

1. 慢性腎臓病（CKD）特別対策事業について

昨年度の委員会において、慢性腎臓病特別対策事業について本委員会で検討することとなり、一般向けの講演会として平成22年9月30日（木）に鳥取県医師会公開健康講座、医療関係者向けに

は、本日の委員会後に講習会を予定している。今後、どのように普及啓発を行っていけばよいのか、進め方等について協議を行った。

委員からは、専門医を受診してもらう必要があるのか、かかりつけ医と専門医との連携を密にしろ、専門医に必ず受診してもらうよう引き続き住民や医療関係者へ周知徹底することが大切である。各地区に専門医がおられるので、地区ごとに講演会等の取り組みも必要である、との意見があった。

また、是非とも特定健診の項目の中にクレアチニン検査を追加してもらうよう、鳥取県保険者協議会に対し、伝達することとなった。

特定健診従事者講習会

日 時 平成22年9月4日（土）

午後4時～午後5時

場 所 鳥取県立倉吉未来中心 倉吉市駄経寺町

出席者 30名

（医師：17名、看護師・保健師：12名、
検査技師・その他：1名）

岡田克夫先生の司会により進行。

講演

重政千秋鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会循環器疾患等部会長の座長により、鳥取大学医学部附属病院第2内科診療科群講師 宗村千潮先生による「かかりつけ医のCKD対策」の講演があった。